



探究的な学習研究推進通信

Fukutomi Inquiry Learning Team



令和5年
5月1日
(月)
No.20

いよいよ最終年度、「まとめと発信」の年です！

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業も今年が3年目、いよいよ最終年度を迎えました。本校で重ねた研究の成果を、域外に発信する年です。しかし、本年度初めて本校に赴任された先生方もいらっしゃいます…。いままでの研究の流れはよくわからないですね。教職員一同、心を一つにして研究を推進していくためにも、いままでのおさらいをしておきましょう！



今なぜ「探究的な学習」なのか？ 劇的に変化する社会（Society5.0）により、子ども達に求められる資質・能力は、「熱意や意欲があればいい！」から、「**戦略的学習力（先を見通し、学び続ける力）やコミュニケーション力を身に付けた即戦力**」に変化しています。それに合わせて、「**教育の役割**」も**変化を求められています**。明確な正解の存在しない社会では、答えのない問いに対して粘り強く取り組む姿勢、主体的に考えて協働的に議論し、納得解を生み出す力が求められます。そのため、福富小・中学校では、プロジェクトの遂行を通して、その課題の解決だけでなく、**他の場面でも活用することができる汎用的能力の育成を図ることができるPBL（プロジェクト型学習）を軸とした、探究的な学習の単元開発**を行っていかうと考えました。研究の内容は、次のとおりです。

- ①育成を目指す資質・能力を設定し、単元計画を開発・実践する。
- ②育成を目指す資質・能力を評価するためのルーブリックを開発する。
- ③3年間の研究成果を域外に普及するためのリーフレットを作成する。



初年度は「D○の充実」 はじめに児童・生徒の実態を把握するため、事前アンケートを行いました。そこから資質・能力のルーブリックを設定し、まずはやってみようの気持ちで試行を重ねました。**子ども達がやりたくなるような導入時の工夫や、地域への思いの高まり、異学年交流によるよさなど、成果がたくさんあがりました。しかし、評価基準が分かりにくかったり、活動が長期間にわたるため見通しがもちづらかったり**するなどの課題もあがりました。（※詳細は令和3年度研究紀要をご覧ください。）

2年目は「本物の探究」 初年度の成果を生かし、課題を改善するために、実践と検証を重ねました。成果は、**児童・生徒同士や地域との協働が活発に行われたこと**、そして、初年度は課題であった**資質・能力の設定と見取り**においても（ルーブリックの見直し、資質・能力の端的な掲示による児童・生徒の意識の変化、資質・能力を意識した振り返りの記入、指導案への具体的な本時のルーブリックの記述など）成果がありました。課題は、**カリキュラムマネジメント**（他教科や学校行事とどのように関連付けていくか）、**アンケートの取り方**（アンケート結果の妥当性を高めるため、文面の工夫、数の確保が必要）、**単元の終わりをどのように設定していくか**という3点があがりました。（※詳細は令和4年度研究紀要をご覧ください。）



最終年度は「まとめと発信」 3年間の研究の成果を発信するために、**11月14日（火）に教育研究会を開催します**。内容の詳細は未定ですが、児童・生徒の発表という形態ではなく、話し合いや意見交流などの探究の過程を見ていただくような内容になればと考えています。探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業の最終年度に向けて、重点的に取り組もうと考えているのは、以下の3点です。

- ①学習内容や成果物を掲示する等、**学びの過程を可視化**する。
- ②**教科や学校行事との関連を意識させながら**、学び続ける態度を育てる。
- ③主体性、協働性を引き出す**教職員のファシリテート**を工夫する。



そして、教育研究会までに、各グループに指導案を作成した研究授業を一度実施してもらおうと考えています。授業日と指導案の完成の目安は以下のように考えています。

グループ	小1年生 小2年生	小3年生 小4年生	小5年生 小6年生	中1年生 中2年生	中3年生
授業日	7月13日 (木)	9月4日 (月)	6月29日 (木)	9月21日 (木)	7月3日 (月)
指導案完成	6月29日 (木)	8月21日 (月)	6月15日 (木)	9月7日 (木)	6月12日 (月)

まずやるべきことは、①主体性・協働性のルーブリックの見直し（昨年度のものを連絡ボックスに入れています。）、**②単元ストーリー、導入時指導案の作成**（昨年度のものから大きく変更はないと思います。マイナーチェンジでよいです。※小1・2年生は、変更の必要性があります。）

学校行事や日頃の教育活動もある中で、研究を推進していくのは大変なことだと思います。困ったり悩んだりしたときには、積極的に声に出してみましょ。そうすることで、周りの職員が気付き、協力することができると思います。小・中教職員で一致団結して、前進していきましょう！

これからの予定

- 5月 1日（月）本年度の流れの説明
- 5月 8日（月）単元ストーリー、導入時指導案見直し（校内研）
※5月19日（金）×切
- 5月11日（木）第1回探究的な学習の在り方に関する研究推進地域連絡協議会（小・中研究主任）
- 5月18日（木）校内研修
研究の方向性の確認
広島大学名誉教授
朝倉 淳 教授 来校
「効果的なファシリテート」
※運動会終了後、6月初旬より本格的にスタートします。準備をよろしくお願いいたします。

先達の言葉

**多様性は活力であり、
進歩の源である。**

ルチアーノ・ベネトン（イタリア実業家・政治家）
新年度が始まりました。今年度赴任された先生方は研究の1、2年目の様子が分からず、大変な思いをされていると思います。しかし、今まで行ってきた探究的な学習を、違った角度から見ていただくことができる変化のチャンスでもあります。ぜひ積極的に意見交流をして共に研究を推進していきましょう。よろしくお願いいたします！